

フレンドリー

FRIENDLY



令和5年度 派遣・受入事業



1200年前の橋は
今も使われています



小・中学生中国・邯郸市研修派遣
邯郸市の弘濟橋にて



高校生米国オレゴン州ビーバートン市、ユーージーン市研修派遣
NIKE本社にて



中学生ベルギー・ナミュール市
研修派遣
ナミュール城壁にて



ブリュッセルのEU本部



ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入 (大垣北高校にて)



No.97
2024
MARCH

第11回大垣市小・中学生中国・邯鄲市研修派遣

8/17~8/24 小・中学生7人、引率者3人

日程表

8/17	中国へ出発、天津見学
8/18	列車にて邯鄲へ、博物館・叢台公園見学、歓迎セレプション
8/19	邯鄲市館陶県糧画見学・制作、黒陶見学・制作体験
8/19	学校訪問、ホームビジット
8/21	太極拳体験・広府城見学後、影芸&面塑見学・体験
8/22	学校訪問後列車にて天津へ
8/23	五大道観光・古文化街散策・観覧車
8/24	イタリア街・金融街見学 日本へ 大垣着



▲天津駅

▲天津～邯鄲への電車の中

天津市

天津見学

租界建築群五大道には、2000棟の洋館があり、天津市独特の風情が感じられます。また、五大道は、本当にきれいな街並みで、現在の中国でもっとも整った状態で残されている洋風の建築群といわれているそうです。天津古文化街は、天津の城下町のように、歩きながらいろいろな商店をのぞいたりするのが楽しかったです。また、伝統的な天津の工芸品もたくさん売られていて、面白かったです。



尾崎 知佳
(北小学校5年)



古文化街にて▶

伝統的な砂糖菓子
ピンタンフル
(冰糖葫芦)



▲五大道の洋館



◀天津アイにて
(橋にまたがる観覧車としては世界初で直径110m)

街並みとグルメ

歴史あるヨーロッパ風の建築が密集して現在でも使用されているものも沢山あり、まるで中国ではないかのようでした。島国の日本と明らかに違う風景に、中国はヨーロッパと地続きだと実感しました。また、天津が経済的に発展して非常に重要な土地であった、ということもわかりました。ヨーロッパ風の建築がこれほど多く密集しているのは中国でも珍しいとのこと。



高橋 幸太郎
(東中学校3年)



▲パンダ顔のデザート



▲日本の寿司店の天津支店

一皿200円



◀天津のレストランで北京ダックを食べました

邯鄲市

太極拳体験

初めて見る太極拳は想像よりスピードがとてゆっくりで一つ一つとても丁寧でした。初めての体験は自分にとっては思い出深いものになりましたし、優しく教えてもらえたので、初めてでも楽しくできました。



久保 菜々花
(東中学校2年)



▲太極拳の学校にて



齋藤 史明
(東小学校5年)

面塑(小麦粉を練って作る人形)作りでは孫悟空を作りました。細かい作業が多く、これも糧画と同様、とても精神力を使いました。そして、できたものは、みんな違いました。だけどそれぞれ良いところがありました。



粟野 光貴
(南中学校1年)

糧画・黒陶・面塑制作体験

糧画制作では、見本の線にそって黒ゴマを一粒ずつ貼り付けました。とても細かい作業で、むずかしかったです。その後、陶芸体験をしました。職人の人はとても簡単に作っているように見えたのに、実際に電動ろくろで回っている粘土の形を変えることはとてもむずかしかったです。



▲糧画作り



小麦粉で孫悟空を作りました。



▲黒陶作り



みんなの作品▶

邯鄲市

思い出がたくさん 学校訪問&ホームビジット



高木 麻衣
(北小学校6年)

最初に高校の見学に行きました。そこで環境に良いプラスチックを使って細い糸で犬笛を作る技術を見せてもらいました。環境に優しくてとても良い技術を勉強していることに驚きました。私が訪問したのは刘(リュウ)さんというお父さん、お母さん、17才のお姉さんと弟さんの4人家庭です。中国の高校生との交流やご家庭を訪問体験させてもらい、中国の人々の生活を知る貴重な経験と学びがある一日でした。



▲邯鄲の学校にて

ホームビジットでは、中国の日常生活を見ることができました。特に食事の時間は、中国の家庭料理を味わう貴重な体験となりました。北京ダックや餃子などたくさんの料理を用意してくださり本当に嬉しかったです。刘さんや王さんとの交流の中で、私が感じたのは、言葉や文化が違って家族の愛や友情は世界共通だということでした。いつかまた刘さんや王さんと再会して楽しい時間を一緒に過ごしたいと思ったので、日本にも来てほしいと伝えました。刘さんご家族が私にしてくださったように、私も心のこもったおもてなしをしたいです。



中村 心乙
(南小学校5年)

研修を終えて

尾崎 知佳

この他にも天津には素晴らしいところがたくさんあって、本当に驚きました。日本にはない文化や様子をたくさん学ぶことができたい、現地の方と言語の壁もあるなか、たくさん交流ができたと思います。この学んだこと・教えていただいたことを今後の中学・高校や将来にも生かせるように頑張ります。

齋藤 史明

ぼくは、邯鄲市研修を通して、中国を身近に感じる事が出来ました。中国はとても大きな国で、邯鄲市の面積も大垣市の60倍、岐阜県ぐらいの面積があることにびっくりしました。天津市も邯鄲市も、駅やホテルがある中心部は、東京のような高いビルがたくさん並んでいました。また、どの自動販売機もコンビニもキャッシュレスでした。大都会でびっくりしました。

中村 心乙

中国の食文化と触れ合うことで、新しい味や食べ物の楽しみ方を知ることができました。それは、私達にとって新しい世界を体験する素晴らしい機会となりました。そして、人々の温かさや、新しい友達との絆は、私の宝物となりました。

高木 麻衣

中国では車は右側通行で、運転席が左側にあるということに気づきました。道路は天津市・邯鄲市共に片側3~4車線あり、走る車は大垣市内よりとても多かったです。信号機は縦型が多く、青信号の継続時間がカウントダウンで示されていました。



餃子づくり



▲1200年の歴史がある皮影劇(影絵)の見学と体験(世界無形文化遺産登録)



▲食事会にて

粟野 光貴

僕たち第11回派遣団は、主に4つの体験学習に取り組みました。1つ目は、糧画体験です。糧画は米や胡麻を使って作る絵で、とても精神力を使います。2つ目は、黒陶制作で、ペン立て作りをしました。3つ目は、太極拳です。ゆっくり動いていて簡単なのかなと思ったら、きつい姿勢でキープしないといけないので、とても難しかったです。4つ目は、小麦粉で孫悟空を作りしました。細かい作業が多く、これも糧画と同様、とても精神力を使いました。これを通して、中国の文化も楽しいと思いました。

久保 菜々花

邯鄲の人たちにホテルで歓迎会をしてもらいました。そこには、邯鄲の外事弁公室の王さんが来てくださって、盛大に歓迎をしてもらいました。自分は人にこんな豪華に歓迎をもらったことがないので、豪華な食事におもてなしについて調べてきたときに、中国ではおもてなしなどはとても熱烈と書いてあったので、まさにその通りだと実感しました。

高橋 幸太郎

僕が中国に滞在した8日間は何にも代え難い経験です。異文化の中に身を置くのは新しい発見のある楽しいことだったのと同時に、日本語が通じず、慣れない環境で過ごさねばならない大変なことでもありました。よく「百聞は一見にしかず」と言いますが、事前に写真で見えていたのとは全く違う中国のスケールの大きさや、中国の方々のあたたかさを感じました。僕は言葉や住んでいる場所が違って、コミュニケーションを取ろうとすることで相互に理解し合えるのだと思います。これからの人生に非常に大きな影響を与えた研修になりました。



団長
三輪 弘文
(北小学校校長)

この研修は、7名の団員にとって、間違いなく今後の人生に大きな影響を与える経験になりました。厳しいスケジュールの中で、内容の濃い研修をやり遂げた団員達は、ひとまわりもふたまわりも大きくなって大垣市に帰ってきました。



総務兼通訳
種田 智美
(東小学校講師)

人と人、大垣市と邯鄲市との間には、彼らのような素晴らしい子ども観光大使がいて、彼らがどんな障壁をも乗り越えられる強い絆を構築してくれとさらに確信しています。私も教員として、この中国派遣事業で学んだ多くのことを教育の現場に還元できるように、日々精進してまいります。



総務兼通訳
松原 玉林
(国際交流協会職員)

糧画・黒陶・面塑の体験学習では、みんな上手に、自信のあふれた作品が出来上がっていました。団員たちのキラキラした目と素敵な笑顔は一生忘れません。今回の研修が団員7人の貴重な経験となり、今後の人生に役に立つと信じています。

第9回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣

9/15～9/24 中学生8人、引率者3人

日程表

9/15	大垣出発、成田空港周辺ホテルに宿泊
9/16	ベルギーへ出発 ホストファミリーと対面
9/17	ホームステイプログラム
9/18	学校訪問(Institute de la Providence(Champion))
9/19	学校訪問(IATA)、ナミュール市表敬訪問、市内見学
9/20	リエージュ
9/21	学校訪問、いちご博物館、さよならパーティー
9/22	ホストファミリーとお別れし、アントワープへ
9/23	ブリュッセル見学、夜日本へ向けて出発
9/24	帰国 大垣到着



▲ナミュールの街並み



▲ナミュール市庁舎

表敬訪問・市内見学



岸本 芹奈
(星和中学校2年)

市役所を訪れました。市の関係者やベルギーの日本大使館の人の話を聞き、フランス語で自己紹介をしました。市役所の外壁には全面に絵が描かれており、とても楽しい雰囲気でした。ベルギーでは市役所だけでなく、たくさんの建物の外壁に絵が描かれています。レンガ造りの建物と、描いてある絵がマッチしてとても

ロープウェイで
丘の上の城壁へ

おしゃれです。ベルギーの竹馬を使うスポーツをする様子や、有名な食べ物など、たくさんのが描かれていました。その後、市内散策をしました。ロープウェイに乗ってナミュール城壁に行きました。ナミュール城壁のてっぺんからは、ナミュールの街と川が見られて、とてもきれいでした。



▲市役所の中庭にて



▲フランス語で自己紹介

Bonjour!!
(こんにちは)



▲中高一貫校(IATA)訪問

中高一貫校(Institut de la Providence)訪問



定井 七海
(北中学校1年)

私は初めてチャンピオン学校を見て、「お城みたいで素敵!」と思いました。レンガ作りの建物、大きな窓、大きな庭があって、「私もここに通いたい!」と思いました。英語の授業でベルギーの生徒と交流し、生徒の名前を漢字にあてて、マノンには「真音」、エレナは「英礼奈」と書きました。とても喜んでくれたので、私も嬉しくなりました。最初は、私のカタコト英語で通じるのかどうか不安でしたが、日本文化を通じて交流ができて、感動しました。

ワア!! おいしそう



▲お城のような校舎



▲チョコレート作り



▲英語授業でナミュールの中学生と交流



一緒におりがみで
“かぶと”を作ろう!!



▲校内を案内してもらいました



▲大垣紹介プレゼンテーション、折り紙、合唱の披露

午後には、みんなでも何度も練習したプレゼンを各教室で行いました。日本のこと、大垣の文化や歴史、食べ物を紹介しました。また、プレゼン内で紹介した紙鉄砲と紙飛行機にも興味津々になってくれて、紙飛行機の作り方を教えてみんなで外に飛ばしました。私たちの英語が伝わるか心配でしたが、みんな楽しんで私たちのプレゼンを聞いてくれました。私たちも楽しく発表でき、よい思い出の一つになりました。



西山 沙歩
(北中学校3年)

リエージュ

ナミュールから電車で一時間ほどかけて行きました。日本の駅と違い改札がなく、近未来感あふれるデザインでまるで異世界にきたようでした。屋根は大きな曲線を描き、ストライプとスクエア柄のステンドグラスが施されています。

ワロン民族博物館から少し歩くと目の前にリエージュの城砦跡へと続く長い階段が見えました。なんと374段と聞いてびっくり。この辺りはレンガ造りの家や塀などの街並みと石畳が続きます。ベルギーといえばレンガと言われるほど伝統的なものさそうです。



▲近代的なリエージュ・ギユマン駅



山川 夏実
(東中学校2年)



▲リエージュ城砦へと続く374段の階段

ブリュッセル

EUの議場に行きました。入口には27加盟国の国旗がずらりと並んでいて、こんなにたくさんの国が加盟しているのだと感じました。そして、今話し合いが必要なテーマが写真で大きく出ている、その工夫がわかりやすくいいアイデアだと思いました。中に入ったらびっくり!大垣の議場とは比べ物にならないくらい大きいのです。座席数は705席で国ごとに席が割当てられドイツが一番多いと聞きました。EUは去年学校で習ったので、そのこととつながることもあってとてもおもしろかったです。



▲EU本部の本会議場



千田 桃彩
(興文中学校2年)



▲グランプラスのシンボルである市庁舎は1400年代に作られたとは思えないほど、豪華な建物でとても印象的でした。

世界遺産の
グランプラス広場の市庁舎

ホストファミリーとの思い出

ホストファミリーは見るからに優しいようで、実際とっても優しい方々でした。

2日目の一日フリーな日は、ベルギーで有名な漫画「TINTIN(タンタン)」の美術館に連れて行ってもらいました。家に帰ったら、さらにびっくりすることになります。ホストブラザーのマクシミリアンとお父さんと一緒に家のプールで泳ぎました。秋でとっても寒かったです。学校に行く時の車内では一緒にきれいなアーチを描いた虹を見ました。それは一番の思い出です。

こんな感じで、とても良い、いや良すぎるほどの体験ができました。「第2の家族」これはホームステイを経験した人の定番のセリフですが、それは本当でした。



近藤 為希
(東中学校1年)

ホストファミリーは、「おはよう」や「ありがとう」の日本語を知っていました。「この言葉は英語でこう言うけど日本語でどう言うか教えて」や「これは日本語ですか?」などの質問がありました。「これは日本語で〇〇と言うよ」や「いただきます」など日本についてたくさん教えてあげました。私がお土産として持って行った竹とんぼや紙風船、シャボン玉などで一緒に遊びました。

約5日間お世話になり、ホストファミリーとの距離も縮まりました。将来、ベルギーをまた訪れたいです。この経験を一切無駄にせず日本でもその成果を発揮し、今後の勉強や生活などにもベルギー研修の力を出していきたいです。



樋口 晴哉
(赤坂中学校3年)

Merci!! (ありがとう)



▲僕のホストファミリー



▲ホストファミリーとのお別れ



家の庭でBBQ!!



森 心梅
(興文中学校2年)

5日目には、日本から持ってきたおにぎり、味噌汁、緑茶のキットを使って、ホストファミリーと一緒に日本の食事を作りました。作っているときも食べているときも、ホストファミリーが楽しそうに作ってくれていたから、私も一緒に楽しむことができました。食べる時にはプレゼントした日本の箸を使ってくれました。上手につかめなかったけれど、日本の文化を体験してくれました。最初は不安ばかりだったけれど共に過ごしていくにつれ、ホストファミリーやベルギーの人とも仲が深まり、たくさんのベルギーの友達ができました。ベルギーでつけた力を日本に帰ってから発揮し、成長した姿でまた会いに行きたいです。



▲箸で日本食に挑戦!!

とても真剣に
聞いてくれました

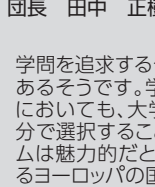


▲感謝の気持ちを込めてさよならパーティーで合唱を披露



団長 田中 正樹(江並中学校校長)

一番の驚きと喜びは、生徒たちの積極性と好奇心の強さです。自分から何でも見て、聞いて、触って、食べました。その好奇心をあらゆるところで発揮しました。何でも食べてみよう、ワッフル、チョコレート、アイスクリーム等自由時間のたびに買っている姿、またそれをみんなに分けて食べている姿が素敵でした。



総務 國枝 秀祐(興文中学校教諭)



総務 吉安 三恵(国際交流協会職員)

お互いに母語ではない英語でのコミュニケーションで言いたいことが十分に言えなかったこともあったはずですが、でも、言葉を超えたところで心が通い合うことを両国の生徒は感じとったことでしょう。国を超えた友情が日に日に育まれていくのを感じました。

第5回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣

10/12～10/20 高校生9人、引率者3人

日程表

10/12	出発 ---日付変更線--- ビーバートン市到着
10/13	コロンビア川渓谷(マルトノマの滝他) ユージーン市へ移動し、ホストファミリーと対面
10/14、10/15	ホームステイプログラム
10/16、10/17	高校訪問
10/18	ビーバートン市役所、NIKE本社、警察署、 サンセット高校
10/19	オレゴンを出発し、日本へ帰国
10/20	到着



▲お世話になったホストファミリー

Beaverton ビーバートン市

ビーバートン市役所を訪問しました。職員の方が市のことをたくさん話してくれました。窓から見える景色は自然豊かで、住んでみたいと思うくらいきれいな街並みでした。また、窓から見えた電車は日本とは違ってポップでかわいらしいデザインで、見ることができてうれしかったです。踏切がなく電車が通る時に音が鳴らないので驚きました。市役所の中の市議会議場へも連れて行ってもらいました。実際の会議と同じように座って、会議中の雰囲気を感じました。なかなかできない貴重な体験でした。大垣市長から預かった手紙と日本からのプレゼントを渡すとても喜んでくれて、これからも大垣市とビーバートン市の交流が長く続いて欲しいと思いました。



長谷川 知英
(大垣西高校2年)



市議会議場の
議員席に座らせて
もらいました



▲ビーバートン市長室からの
眺め



サンセット高校の
生徒と交流



▲警察犬



▲ビーバートン市警察署にて

Eugene ユージーン市



▲自然に囲まれたユージーン市



村中 望桜
(大垣東高校2年)

日本よりも緯度が高いため、10月中旬ですでに紅葉で色づいていました。ユージーン市を流れる川沿いには公園があり、小島の浮く池やオブジェが設置されており、とても興味深いです。生態系が豊かなのか、カモやリスなどのたくさんの動物を見かけました。

4月～11月の毎週土日にサタデーマーケットが開かれます。野菜や卵、パンの他に、ファッションアイテム、絵画や調度品なども売りに出されています。フリーマーケットのように様々な品物が売りに出される様子は大垣の「元気はつらつ市」に似ていると感じました。



サタデーマーケット



▲引率者がユージーン市のルーシー・ヴィニヌ市長さんにご挨拶に伺いました

オレゴンの自然



▲マルトノマの滝

オレゴンはとても自然豊かな場所で、どこを見渡しても自然にあふれており、マルトノマの滝はオレゴン州の中で最も高い滝で落差189mもあると言われています。散策道を通って、とても近くで見ることができ、近くで見ると感動的で気持ちがリフレッシュされました。滝付近にはたくさんの方がいて、ホストファミリーに聞くと、有名な場所で行くと聞かれ、多くの人に愛されている場所だと感じました。

自然が豊かであることで、オレゴンに住む人々は温かい人ばかりなのだと思いました。自分自身もたくさんの自然を感じ、心をリフレッシュできたことをうれしく感じ、良い経験となりました。



小竹 杏月
(大垣東高校2年)

街のいたるところで
見かけたリス

高校訪問 1日目:ホストシスター・ブラザーの一日を体験 2日目:日本語クラス

【サウスユージーン高校】高校訪問を通して感じたことは、とても自由だということです。皆思い思いの服装で登校していました。クラブ活動もたくさんの種類があり校内にはスポーツ施設が整備されていて、自由にクラブを設立することができます。生徒の授業の取り組み方も様々で、メモを必死に取ったり周囲の生徒と意見交換をする生徒もいれば、イヤホンをつけていたり、他の科目のレポートを書いていたりする生徒もいました。アメリカでは、自分がどの科目を選択するか、どんな活動をするか、どのように授業に取り組むのかを全て自由に決められます。ただ、選択肢が広い分、一つ一つの行動に対する責任がとても重くなります。将来自分のなりたい姿を明確にした上で選択しなければいけないので、何をすればいいか決められている日本の高校よりも大変だと思いました。



河合 昂
(大垣北高校3年)



◀英語と日本語でグループ交流



▲学校生活についてのプレゼン



校内のスポーツ施設



中島 双葉
(岐阜高校1年)



【チャーチル高校】驚いたことが3つある。その一つは「授業の活発さ」だ。教室内の机は基本前を向けられておらず、4人グループで座っているか、全体がコの字型に配置されているかのどちらかだった。幾何学の問題演習の時間も、積極的な話し合いが行われていたことが印象的だった。グループごとに分かれてプレゼンテーションをする授業もあった。生物の授業では宿題が出されたが、ただ問題を解いてくるというものではなく、興味を持った微生物が人間に与える影響を調べ、ポスター形式でまとめるというもので、このような宿題が日常的に出されていることに驚いた。

【シェルダン高校日本語クラス】大垣市と日本の高校生の生活についてのプレゼンテーションをした。はじめの2回は英語で行い、最後の1回は簡単な日本語で行った。

プレゼンテーション前半部分では生徒たちの反応が薄いように思われて、私たちの話す英語が拙すぎて伝わっていないかと不安になった。しかし、プレゼンテーションについてのクイズでは正解者が多く、終わった後に先生が生徒たちにプレゼンテーションから何が聞き取れたかを尋ねた。どんなところに興味がわいたのかわかり、興味深かった。教室には日本の漫画が置いてあったり、アニメ作品の画像や生徒が書いた書道の作品が掲示されていた。また、生徒は授業内で本名とは違う日本の名前と呼ばれていた。本名とは違う外国の名前を持つことはどこかかっこいいように思われて、学習のモチベーションにつながるのかもしれない。



成願 治海
(大垣北高校2年)

ホームステイの思い出と研修を通して

日曜日は地元オレゴンの女子バレーの公式戦を観戦に行った。相手はテキサスのチームだったが、地元愛が強く、会場はほぼオレゴンの人たちで埋まっており、ローカルカラーの緑でいっぱいだった。また、月曜日の夜はレストランで食べたが、食べ残しは持ち帰っていた。日本では全く見ないが、「当然だよ。日本にはないの?」と言われ、先をゆくアメリカを感じた。これら以外にもホストブラザーのアメフトの試合を見たり、ボーリングに行ったり、ゲームをしたりと、充実したホームステイだった。しかし、当然楽しいことばかりではなかった。何より話を聞き取ることが難しかったり、説明しようとしても単語がわからなかったり、時々会話に詰まってしまったことに自分の未熟さを感じたが、ホストファミリーの温かさに触れられたよかった。将来への大きな一歩になったし、かけがえのない関係もできたので、次はもっと学んで、より会話を楽しみたい。

ホストブラザーとアメフトの試合へ▲



今井 海
(大垣北高校2年)



ホームステイの思い出の一つは家の近くの散歩です。子犬を飼っていてマザーが散歩をしていたので一緒に付いていきました。家の周りは自然が豊かで空気がとても新鮮でした。駐車場に七面鳥がいたり、小さなリスがいたり、鹿が木の奥にいたり多くの動物を見ることができました。ホストファミリーと交流する中で、Google 翻訳を使えば解決したこともありましたが、それでも、自分の英語能力が低くもって話したかったと思いました。この研修を通して、「英語をもっと話せるようになりたい」や「また海外に行きたい」と思えるきっかけになりました。



森 拓人
(大垣北高校2年)



▲ホストファミリーとの対面

ハロウィーンのランタン



安田 汐里
(大垣東高校2年)



▲私のホストファミリー

アメリカのいろいろな食べ物に挑戦したいという私の望みを聞き入れて、ハンバーガーやパンケーキ、ホットアップルサイダーなどを食べさせてもらいました。どれも本当においしくて、幸せでした。アメリカではトッピングを自分で選ぶことができるお店が多く、アレルギーや苦手なものがある人にも配慮されていると感じました。食べきれない時はお持ち帰り用のドギーバッグがあるのも日本と違って、フードロスの削減になるので日本でも導入するべきだと思いました。今回のホームステイでは、何でもトライするという目標を持って、積極的にコミュニケーションを取り、アメリカの文化や生活を身をもって感じる事ができ、自信が持てていなかった以前の自分からは想像できないような前向きな人へと成長ができ、この経験は一生ものの思い出となりました。



団長 高橋 時雄
(国際交流協会事務局長)



総務 加藤 咲子
(国際交流協会部会員)



総務 吉安 三恵
(国際交流協会職員)

団員もホストファミリーも涙が止まらず別れがたいものでした。また、日本に着くなり「このまま、またオレゴンに行きましょう」と言う生徒やオレゴンのホストファミリーが恋しくて泣きだす生徒もいました。それは、素晴らしい時間を共に過ごし、心が通い合った証であり、交流は大成功だったといえるでしょう。

第13回 ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入

9/29～10/5 高校生13人、引率者2人

日程表

9/29	大垣到着後ホストファミリーと対面
9/30、10/1	ホームステイプログラム
10/2	日本文化体験(浴衣、日本舞踊、茶道)、 江並中学校、大垣城、歓迎会
10/3	奥の細道むすびの地記念館、和菓子作り、 表敬訪問、大垣北高校
10/4	中川小学校、岐阜県美術館
10/5	ホストファミリーとお別れ、関ヶ原古戦場記念館、 帰国



▲大垣市表敬訪問

ホームステイ



子どもたちとは折り紙や、お絵描き、まわし将棋などをして平日は過ごしました。週末は京都に行きました。私達も日本の魅力再発見という感じでしたし、道中たくさんのお話を(主に日本語で)してくれて、仲を深めることができました。

(トロメイさんと内田ファミリー)



島国で暮らす私たちと違い、言語も文化も異なる人たちが道を挟んで自由に生活し合うヨーロッパに位置するドイツという国で、母国以外の他の国のことや歴史、文化など、たくさんのお話をしてくれました。日本とは異なる習慣や似ている面などが見えてきて、とても興味深く、マックスとお別れした後も、家族で話題にして話すことがあります。

(ハラーさんと岡野ファミリー)



今回、初めてのホームステイ受け入れでしたが、日本語が母語の学生さんだったため、困ったこと等は全くありませんでした。今後も微力ですが、できることがあれば他の形でも国際交流に参加したいと考えています。

(マイゼンバッハさんと遠藤ファミリー)



週末は次女の小学校運動会を見に行ったり、餃子と一緒に作ったり、お友達をたくさん招いておやつパーティーをしたり、花火をしたり、京都に行ったりともりだくさんに過ごしました。食事は少食な子で日本食には口に合わないものもあるようだったので、様子をみながら日本食を出したり、洋食を適宜挟みながら、負担なく楽しんでもらえるよう工夫しました。

(ナーメンリンガーさんと安田ファミリー)



生活面においてもほぼ苦労したこともなく、部屋もきれいに使用してくれました。注意したことも素直に聞いてくれましたし、コミュニケーションも日本語で積極的に話してくれましたし、困ったことは特にありませんでした。今回エレフと出会わせていただいたことに感謝致します。家族がまた1名増えた感じです。

(アタナシウさんと中村ファミリー)



私たちが準備したことは、イスラム教について学び、「ハラル醤油」を買い求めたことです。別れの時、感極まって一言も話せなかったのですが、受け入れた家族としては、それほど喜んでくれて良かったです。娘はドイツで再会することを約束してお別れしました。

(イナンさんと渡部ファミリー)



ホストファミリーの皆さま、ありがとうございました!!

学校訪問(中川小学校、江並中学校、北高校)



▲中川小学校の皆さんと
▼書道、英語クラスなどで交流▼



▲江並中学校にて
給食体験、授業参加、掃除体験交流



かるた部見学

▲大垣北高校にて
授業参加、部活動体験などで交流▼



日本文化体験と市内見学



▲奥の細道むすびの地記念館(たらい舟)



大垣城見学

茶道、浴衣、
日本舞踊体験



▲和菓子作り体験

海外研修派遣事業 報告会

中国・ベルギー派遣 12月2日(土)
アメリカ派遣 12月16日(土)

今年度実施した中国・邯鄲市、ベルギー・ナミュール市、アメリカ・オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市の各派遣事業に参加した団員が、体験したことなどを市民の皆様に向けて報告しました。保護者や学校関係者をはじめ外国に興味のある方など93人が集まり、団員の発表に耳を傾けました。報告では、ホームステイでの体験や思い出、学校訪問などのプログラム、日本との違いについて写真を示しながら発表しました。



▲中国派遣



▲ベルギー派遣



▲アメリカ派遣

創立35周年記念事業「多文化交流会」

3/3 スイトピアセンター スイトピアホールにて 参加者82人

昭和63年(1988年)に設立された大垣国際交流協会は、今年度で35周年を迎えました。今まで支えてくださった賛助会員、ボランティア登録者など当協会に関わりの深い方々や外国人住民を含む地域住民の方、計82人にご参加いただき、交流会を実施しました。



▲日比理事長あいさつ



乾杯!!



各国の紹介とゲーム

大垣に暮らす外国人市民約6,200人の中で、人数の多い3か国「ブラジル」「中国」「ベトナム」出身の皆さんによる、クイズを交えた母国の紹介と各国のゲームを行いました。ゲームを通して同じテーブルの参加者同士での交流も盛り上がりしました。



中国流の指での数字表現を覚えましょう!!



数字の「10」



▲マッチ棒を使ったブラジルのゲーム



▲ブラジル出身の菅野 五月さん



▲ベトナムの紹介



ボランティア感謝状贈呈

令和5年4月1日現在で、15年以上当協会の国際交流ボランティアとして登録されている6名の皆さんにボランティア感謝状を贈呈いたしました。ありがとうございました。今後もよろしくお願い致します。

伊藤 由美子様 井上 美千代様
 杉山 寿生様 外部 一也様
 樋口 泰平様 馬淵 隆生様



各国の食事体験

ブラジル、中国、ベトナム、日本の4か国の食事を体験していただきました。



▲ベトナム出身のグエンさん、ジェップさん、ガンさん、ドンさん(左から)は「パインミー(サンドイッチ)とコーヒーを紹介



◀ご飯の上にほぐした牛肉をのせたブラジルの「ブラ丼」



▲中国「肉まん、春巻き、からあげ」

「多文化交流会」は、宝くじの助成金(宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源としているコミュニティ助成事業)で実施しました。

令和5年度を振り返って

【国際交流・国際理解事業】

《フレンドリーシティ派遣事業》

- ✳️中国・邯鄲市小・中学生研修派遣
(8/17～8/24 小学生4人、中学生3人、引率者3人)
- ✳️ベルギー・ナミュール市中学生研修派遣
(9/15～9/24 中学生8人、引率者3人)
- ✳️アメリカ・ピーバートン市、ユージーン市高校生研修派遣
(10/12～10/20 高校生9人、引率者3人)

《フレンドリーシティ受入事業》

- ✳️ドイツ・シュツットガルト市学生訪問団受入
(9/29～10/5 高校生13人、引率者2人)
中止 中国・邯鄲市学生訪問団受入
中止 ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入
中止 オーストラリア・グレンアイラ市学生訪問団受入

《地域国際交流事業》

- ✳️多文化交流会 (35周年記念事業) (3/3)
参加者：82人
〈宝くじ(自治総合センター)助成事業〉
- ✳️リトアニア文化教室 (11/23) 参加者：30人
〈岐阜県主催、当協会協力〉
- ✳️多文化共生フォーラム【共催】
～各国の「違い」を尊重して共に生きる社会とは～
「世界の冠婚葬祭」(6/25)
(主催：岐阜県世界青年友の会)

《国際交流ボランティア活動推進事業》

- ✳️日本語学習支援ボランティア講座
第1期 (7/1～8/12【全5回】) 受講者：19人
第2期 (1/28～3/2【全5回】) 受講者：25人

《民間国際交流助成事業》

- ✳️助成事業：4団体4事業

《外国語基礎会話講座》

- ✳️英語基礎会話講座 (10/13～12/8【全8回】)
受講者：12人
- ✳️ポルトガル語基礎会話講座(10/22～12/17【全8回】)
受講者：6人
- ✳️韓国語基礎会話講座 (1/13～3/9【全8回】)
受講者：5人
- ✳️中国語基礎会話講座 (1/14～3/10【全8回】)
受講者：16人



▲語学講座



▲国際理解ワークショップ
【コートジボワール編】

《海外事情紹介事業》

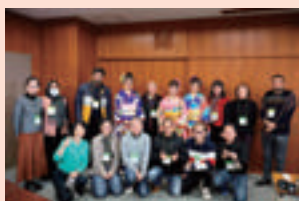
- ✳️国際理解ワークショップ
・ベラルーシ編 (8/20) 参加者：11人
・コートジボワール編 (11/26) 参加者：9人
〈(公財)岐阜県国際交流センター助成事業〉
- ✳️海外研修派遣事業報告会
中国・ベルギー派遣：12/2 参加者：62人
アメリカ派遣：12/16 参加者：31人

《国際相互理解事業》

- ✳️事業記録写真等の展示
(スイトピアセンターフレンドリーフロアにて)
- ✳️広報事業
・機関誌「フレンドリー」発行 (9月、3月)
・ホームページによる広報：随時更新中

【多文化共生事業】 《地域在住外国人支援事業》

- ✳️地域在住外国人の日本語学習支援
・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援
学習者数：85人、ボランティア数：57人(2月末現在)
- ・にほんごおしゃべりルーム (毎週日曜日)
- ・日本語教室
・レベル1 (6/4～3/17【全30回(3期)】)
受講者：計52人
・レベル2 (6/4～3/17【全30回(3期)】)
受講者：計35人
- ・外国人児童プレスクール事業〈大垣市受託通年事業〉
参加者：39人



▲日本語教室



▲外国人児童プレスクール事業

- ✳️地域在住外国人のための相談窓口の設置
・相談窓口 [ポルトガル語、中国語、英語]
・行政書士による手続き相談 (毎月第1日曜日)
・ポルトガル語によるこころの相談 (毎月第2日曜日)
・弁護士による法律相談 (毎月第4日曜日)
〈法テラス岐阜共催〉
- ✳️地域在住外国人のための行事・講座
・和服体験 (月1回) 参加者：24人 (2月末)
・十万石まつり神輿体験 (10/8)
参加者：16人



▲十万石まつり神輿体験



▲和服体験

- ✳️ブラジル人子弟日本語学習支援事業
・日本語指導者派遣 (学校法人HIRO学園への派遣)
(毎週月・木曜日)

令和6年度 事業計画

【フレンドリーシティ派遣・受入事業】

- ＊大垣市小・中学生研修派遣（オーストラリア・グレンアイラ市）（8月）
- ＊大垣市中学生研修派遣（ドイツ・シュツットガルト市）（9月）
- ＊大垣市高校生研修派遣（アメリカ・ビーバートン、ユージーン市）（10月）
- ＊ベルギー・ナミュール市学生訪問団受入（5月）
- ＊中国・邯鄲市学生訪問団受入（7月）
- ＊オーストラリア・グレンアイラ市学生訪問団受入（12月）

【地域国際交流事業】

- ＊多文化紹介講座（7月、12月）

【国際交流ボランティア活動推進事業】

- ＊日本語学習支援ボランティア講座（7月、1月）
- ＊ボランティアの集い（3月）

【外国語基礎会話講座事業】

- ＊英語基礎会話講座（10月）
- ＊フランス語基礎会話講座（10月）
- ＊韓国語基礎会話講座（1月）
- ＊ドイツ語基礎会話講座（1月）

【海外事情紹介事業】

- ＊海外研修派遣団員報告会（小・中学生:11月、高校生:12月）

【民間国際交流助成事業】

- ＊民間国際交流団体助成（随時）

【国際相互理解事業】

- ＊事業記録写真等展示＜海外紹介、事業紹介＞（随時）
- ＊機関誌「フレンドリー」発行（9月、3月）
- ＊ホームページによる広報（<https://www.i-oiea.jp>）

【多文化共生事業】

- ＊地域在住外国人の日本語学習支援
 - ・ボランティアによるマンツーマン方式日本語学習支援（通年）
 - ・にほんごおしゃべりルーム（通年）
 - ・地域在住外国人のための日本語教室（年3期実施）
 - ・外国人児童プレスクール事業＜大垣市受託事業＞
- ＊相談窓口開設
 - ・相談窓口＜ポルトガル語、中国語、英語＞（通年）
 - ・行政書士による行政手続き相談（毎月第1日曜日）
 - ・ポルトガル語によるこころの相談（毎月第2日曜日）
 - ・弁護士による法律相談（毎月第4日曜日）
- ＊地域在住外国人のための行事・講座
 - ・地域在住外国人のための和服体験（通年）
 - ・地域在住外国人のための浴衣体験（8月）
 - ・地域在住外国人のための神輿体験（10月）
- ＊ブラジル人子弟日本語学習支援事業
 - ・日本語指導者派遣（通年）

インフォメーション

<ボランティア募集>

公益財団法人大垣国際交流協会（OIEA）では、ホームステイ、日本文化紹介、通訳・翻訳、日本語学習支援、企画・運営の各ボランティアを募集しております。詳しくは、大垣国際交流協会までお問い合わせください。

<賛助会員募集>

OIEAでは国際交流に関心のある方、又OIEAの設立趣旨や活動をご理解のうえ、支援していただける賛助会員制度を設けています。個人会員と団体（法人）会員があり、ご賛同いただける方を広く募集しています。年会費（1口）は、個人会員:3,000円、団体会員:10,000円です。詳しくは、大垣国際交流協会までお問い合わせください。

大垣市在住外国人の国籍別人数表

総数:6,246人(国籍数:43)
前号(令和5年9月号)との比較 193人増

	令和6年2月末	前号(令和5年9月号) 8月末人数	前号(令和5年9月号) との比較
ブラジル	2,291	2,297	-6
中国	1,101	1,111	-10
ベトナム	854	789	65
フィリピン	674	613	61
韓国又は朝鮮	248	260	-12
その他	1,078	983	95
合計	6,246	6,053	193

総人口に占める割合 4.0%

編集後記

当協会も35周年を迎えました。設立当初から関わっている筆者にとりまして、あつという間に過ぎた35年です。

コロナも5類に移行し、派遣・受入事業が再開された記念すべき2023年です。編集に悩むほど掲載記事も豊富になり、ページ数も増えました。

表紙には35周年記念事業の様子、学生さんの派遣・受入れの楽しそうな笑顔の写真を掲載しました。感想文もぜひご一読ください。彼らには貴重な経験が得られ、これからの進路にきっと良い影響が及ぼされると思われる言葉が述

べられています。嬉しい限りです。受入をしていただきましたホストファミリーの皆さまには、深く感謝を申し上げます。

令和6年度も、無事に各事業が実施されますことを心より願っています。元日に発生しました、能登半島地震には各地、各国からの支援が届いています。復興には長い時間がかかるようですが、被災者の皆様がお元気に過ごされますことを心より祈念いたします。平穏な社会でありますように。

フレンドリー No.97

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911 大垣市室本町5丁目51番地

スイトピアセンター学習館2階

TEL(0584)82-2311 FAX(0584)82-2314

<https://www.i-oiea.jp/>

[E-mail] oiea@mb.ginet.or.jp



発行／2024年3月

印刷／サンメッセ株式会社

ホームページQRコード

